

Dear地球民

第6号

1991年5月発行

編集発行 ゆがわ国際交流協会

神奈川県足柄下郡湯河原町土肥1-7-1

湯河原町商工会内 ☎0465-63-0111

サンファンカピストラーノ市との 友好交流関係を断念

昭和60年(1985年)に初めてアメリカ合衆国カリフォルニア州サンファンカピストラーノ市を訪れて以来、7年が経過した。この間、同市を4度訪問したが、特に3度目(昭和63年)には湯河原町の中高生を交え、8名が同市にホームステイするなど、同市の市民との友好関係は深まって行った。こうした私たちの活動が湯河原町議会でも認められ、昨年(平成2年)には町議会議員を中心とした調査団が組織され、同市を訪問、姉妹都市提携に向けて着々とその準備が進められて行った。

しかし、今年(平成3年)2月に姉妹都市提携の調印式を行うべく最後の段階に入り、1月に突然、同市市長から姉妹都市提携は進められなくなった旨、連絡が入った。

その主な理由として、昨年11月同市議会議員選挙の結果、新議員が数名入れ替ったため、議会の構成が変わったこと、新議員による方針の変更があったこと、同市の財政事情が悪化したこと、国際交流より優先すべき重要事項が山積していることなどから従来から姉妹都市関係にあるアルゼンチンやスペインの姉妹都市

との関係も取り止めたこと、このような状況下で新たに提携関係を結ぶことは不可能であると言った。

湯河原町でも、この連絡の対応策を検討した結果、同市の事情に配慮し、今回は断念せざるを得ないとの結論に達し、議会もこれを了承した。

ゆがわ国際交流協会としても、同市との交流を重要活動のひとつに挙げて進めて来たため、去る1月に緊急理事会を開き、この案件について検討した結果、このような状況下では、同市との交流を続けることは芳しくなく、協会としても残念ながら断念せざるを得ないとの結論に達した。

湾岸戦争に終止符を打ったとは言え、まだ平和な世界には程遠く、今こそいろいろな国々や市民との友好関係を続けるべき時期だけに、このような結果に終わったことは本当に残念でならない。しかし、今回の結果が最悪に終わったことに負けずに、私たち協会として、さらに今後も海外の人々と友好的な交流を続けていきたいと願っている。

「中国現代事情」開催される

—— 講師に露木裕子先生を招き ——

去る12月13日(木)午後7時30分より、湯河原町商工会館において、講師に中国語講座を担当いただいている露木先生を招き、「中国現代事情」とのテーマで講演会が開催された。参加者は23名。

この講演会はとてもユニークだった。何度も中国に足を運んでいる先生は、その都度写真に収めたスライドを映写し、1カット、1カット、微に入り、細に入

り、説明を加え、参加者全員中国に行った気分させてくれた。特に中国の人物写真に興味を引かれた。そして、参加者や協会で用意した茶菓子と飲物を口にしなが、講師から一方的に話を聞くのではなく、和気あいあいとしたおしゃべりパーティーの様相を呈していた。

こんな楽しい講演会なら、何度やってもいいなあと、次の企画も実行しなくては、と心から感じられる講演会だった。



講師の話に真剣な参加者の面々

少しドキドキ・・・

楽しかった 新年パーティー

去る2月5日(火)午後7時よりレストラン「帰郷」において、ゆがわら国際交流協会会員の親睦を目的に、少し遅い「新年会」が開催された。参加者は40人余りだったが、それぞれ気の合った者同士が小グループに分れ、飲んだり、食べたり、おしゃべりしたりで、なごやかな雰囲気の中に時間が過ぎて行った。

ムードが最高調に盛り上がった頃、パ

ーティーの仕掛け人たちが全員を立たせ、「ただ今から、皆でゲームをやりましょう。」と、少しエッチなゲームが始まった。やる者、見る者、皆、お腹を抱えて笑い転げた。

中国語講座講師の露木先生や小田原J Cの国際政策委員会の前、現正副委員長もこのパーティーに馳せ参じてくれ、本当に楽しい一時を過ごすことができた。

— 大きく広がる人の輪 —

英語講座受講生の新年会

去る1月11日（金）午後7時より湯河原町商工会館で、英語講座受講生による新年会が、昨年暮に開かれたXマスパーティーに引き続き、盛人の中に開催された。

英語、中国語両講座が前期、後期年2回、協会の公式事業として開講を初めて2年目を終わり、それぞれの講座に出席した受講生が講座終了後も任意で教室を続けている。年々生徒たちも増え、講師の先生も好意で面倒を見てくれている。1期の講座が10回、最短でも2ヶ月半かかり、初めは見知らぬ人たちも冗談を言える間柄になり、受講生全員、和気相々とした、とてもなごやかな仲間と言った関係が出来上がっている。受講生には、

老若男女、サラリーマン、公務員、商工業者、農業、漁業、主婦、学生、リタイアされた人と多岐に渡り、外国語講座がキッカケとなって、その輪はどんどん大きく広がり、私たち協会としても初期の目的を果たしたものと喜んでいる。この事業は今後もずっと続けたいと願っている。

さて、新年会だが、講師のスージー先生はパーティー大好き人間。食物、飲物各自持参、ゲームを次々編出し、ミュージックテープをドサッと持込み、雰囲気盛り上げるテクニックは大したものである。このような訳で、参加者は時間が経つのも忘れ、心からパーティーを楽しんでいた。



スージー先生を囲んで（英語講座受講生の新年会）

私のセンチメンタル・ジャーニー（2）

さて、飛行機は予定通りサンフランシスコ空港に到着、娘夫婦が迎えに来てくれアメリカの大地に第一歩を踏んだ。

一切のスケジュールは一応あなた任せにせざるを得なかった。まずベトナム人ばかりの街に案内され、昼めしを食べることにした。ラーメンを注文、味はまあまあだったが、そのボリュームに驚き、テーブルの上にチップを別に置くのを見て、新しい外国の習慣を覚えた。

ベトナム戦争の終結は16年前になるが、犠牲になった多くの人達に特別地区が与えられ、そこで新しい再生の道を選び、お互い助けあってみごとな街を形成してしまった。ベトナムの人々は、祖国でと同様、大家族で住もうとする。異文化が会う時のさまざまな混乱を「ポートピープル」はもたらした形になった。

ベトナムの人々はしたたかに生きた。必死に働き、子供達に教育を受けさせる。若い世代は優秀で、いまや先端技術の担い手になっているそうだ。米国のコンピューター産業を支えるのはベトナム人、といわれるほどだという。この街は盛況で、その雰囲気は肌で感じられた。

共産党支配の祖国は経済的に苦境にある。帰国して再建を助けたいと願っている人も多いと聞いている。歴史の巡りあわせ、人間の強さ、そして難民を抱えて育てる米国社会の懐の広さ、などを感じさせられた。

日本人ゆえに自分の国と比較するが、かつてポートピープルが長崎に漂着した時の日本の彼らに対する処置を見て、やりきれないものを感じたのは私一人ではないと思う。

人種のるつぼと言われるアメリカ社会、他にチャイナタウン、リトル東京、韓国人の多い社会、皮肉なことに東洋系の人達に秀才が多いと聞くが、生きることの真剣さがもたらすのか、はげしい競争社会の中であって、日本国内の現状の甘えの構造でないことは事実のようだ。

外国に来て祖国を見るとよく分かるという話を聞くが、ほんの一端を見ただけで、すぐ批判がましいことを感じたのは、年齢のせいだけではなさそうだ。（次号へ）